

## 令和4年度第4回 川越市農業振興審議会

**1 開催日時** 令和5年3月10日（金）午前10時～午前11時

**2 開催場所** 川越市役所4階4A会議室

**3 出席者**

平口嘉典、石川秀夫、矢澤則彦、加藤榮壽、内田光夫、田中健

**4 事務局職員**

産業観光部部長 岸野泰之、産業観光部参事兼農政課課長 高梨直人、農政課副参事 藤倉良介  
小川覚一郎、青野剛士、野村哲、分須正二、高梨峰継、高田英明、鈴木千晶

**5 会議の概要**

1 開会

2 議事

- (1) 第3回審議会以降の意見と対応について  
委員からの意見と質問なし
- (2) 意見募集の概要と結果について  
委員からの意見と質問なし
- (3) 答申について  
委員からの意見と質問なし
- (4) その他  
委員からの意見なし

(事務局)

- ・委員から一言ずつ感想を伺いたい。

(副会長)

- ・私は平成30年度の計画策定から川越市農業振興審議会委員として参加している。今回も素晴らしい「川越市農業振興計画改訂版」ができたと思っている。
- ・私も農業を営んでいるが、本改訂版に掲載されているとおり新型コロナウイルス感染症の影響やウクライナ情勢による資材・肥料等の高騰などで、経営が大変厳しい。
- ・この度、本改訂版ができ、これを川越市内の農業者に周知し、今後の川越市

の農業の発展に寄与できればと考えている。

- ・大変短い間であったが感謝する。

(委員)

- ・私は水田地帯に住む農業者の 1 人である。現在、水稻栽培と花き園芸（切り花）で生計を立てている。
- ・地域の耕作者は年ごとに減少しており、遊休農地が多くなっている。
- ・現在耕作している人も、管理を他の人に任せたいと考える人も多い。
- ・本改訂版でも「儲かる農業」を挙げているが、農業後継者や担い手不足の原因は労働時間に対して農業収入を上げられないことではないかと考える。
- ・土地改良区として、今後は水の供給や賦課金だけでなく、農業者の意見を聞きながら遊休農地解消など農業が継続的に営まれていくように行政の力も借りしながら、川越市内の農業をいい方向に進めていきたい。

(委員)

- ・この 4 回の審議会では大変お世話になった。
- ・各委員の意見は勉強になった。
- ・「川越市農業振興計画改訂版」の目標の実現に向け、川越農林振興センターとして引き続き協力していきたい。

(委員)

- ・営農を継続的に続けるためには、収入の保障が必要である。農業で収益を上げ、生計を立てられるビジョンが描けるようになれば若い人の就農も見込める。
- ・来年度から新しく「地域計画」を策定することになる。「地域計画」の策定に農業協同組合も協力する。
- ・「地域計画」策定後に個々の農業者を支える地域の農業組織づくりを「地域計画」の策定を進めていく中で行う必要がある。
- ・農地を維持するためには金銭的負担も大きい。耕作放棄地の管理に係る費用を所有者に要求するシステムが必要と考える。また、市が遊休農地解消に取り組み、遊休農地解消のための補助や支援があるとよい。
- ・個人的見解ではあるが、米の消費量が減り、需要と供給のバランスがとれていないため、市街化区域の水田は畑化したほうがよいと考えており、水田の畑化を支援するための政策も必要だと考えている。
- ・水田の畑化の話になると防災・減災の観点から田んぼダムの話が出る。田んぼに貯留機能があるのは事実だが、農業者は田んぼダムのために水田を維持しているわけではない。

(委員)

- ・今回の「川越市農業振興計画改訂版」策定では、第一次産業としての農業と

グリーンツーリズムの両者に隔たりがあり、その両方を同会議内で取り扱うことの難しさを学んだ。

- ・今後の水田や畑の活用に、都市住民が地域農業を支えるシステムを考えることもできる。例えば、首都圏在住の都市住民が、農業体験ができる耕作地（共同菜園でも可）と希望の日程で滞在できる住宅の使用権を購入することができるシステムを提案する。購入者は2週間程度滞在しながら農作業の手伝いなどができ、年に1回米が送られてくる。実際の耕作地の管理や農作物の栽培などは、川越在住の農業者が代替して行い、その委託管理費を受け取る。このシステムが実現できれば、農地を集積して一帯を耕作でき、遊休農地解消にも貢献できると考える。
- ・川越は第1産業、第2次産業、第3次産業がバランスよく存在しているので、部署で垣根を越えて、そういったメリットのある不動産を都市住民に提供していくのはどうか。
- ・土地管理や農業管理などを先程提案したシステムで農地管理は可能なのかを新しい着眼点で話し合っ、他の委員の意見にあった地域を支える新たな組織を作るという方向もある。

(会長)

- ・最後に私からも一言感想を述べる。
- ・私がこの4回の中で印象深かったのが、農業者と、そうでない住民との間の課題についての意見を伺ったことである。  
グリーンツーリズムで「農のある生活」を目指しているが、一方ではまだ農業者と都市住民と融和しきれてない部分がある。まさにこの「川越市農業振興計画改訂版」で掲げた3つの柱を融合させていくことが、次の5年の大きな課題であると考えます。  
この計画の施策を着実に進めていくことで、最終的にはその3つが融合することを期待している。
- ・私自身も大学教員という立場で「農のある生活」の部分でやれることはないか考え、これから実践していくことを心がけていきたい。

## 7 閉会

(事務局)

- ・会長をはじめ、審議会委員の皆様へ、誠に感謝している。
- ・事務局では、頂いた答申案を元に、3月20日に、本審議会からの答申を行う。
- ・その後、本年度中に「川越市農業振興計画改訂版」として、議会報告の上、公表させていただきたい。
- ・委員の皆様へ4回にわたった審議に感謝する。
- ・以上をもって、第4回川越市農業振興審議会を終了する。